

Vol.
12Webでも
情報発信中2018.4 発行 <http://mihokondoh.net/>子どもにやさしい
地域は
みんなにやさしい

H30.2.2 ざっくばらんに近藤に何でも聞いてみたい会 転入してきた方に流山市の教育環境の情報提供

ご挨拶

市議会議員になって3年。任期満了までの残り1年は訴えた政策の進捗を確認する大切な1年になります。近藤の活動にご注目下さい。

先日、保育士研修をご担当される講師から「保育者は思い通りにならない経験こそが宝になる、最初から色々出来ない子どもの気持ちが分かるから」という話を伺いました。気持ちに寄り添うことで主体性を伸ばし「自分は頑張っていける」と思える心を育てるのが保育だそうですが、気持ちに寄り添う大切さは、高齢者のケアに通じる話です。流山市は子どもと高齢者が多い街ですから、このようなケアの視点を忘れず政策提案をしていきます。



3月8日 国際女性デー
女性の権利の獲得に向けたこれまでの歩み
に敬意と感謝をもってパレードに参加

議員活動のご紹介

●政策調査・研究

「住み続けたい街、流山市」にするために、議員本来の仕事である政策の調査・研究に力を入れています。流山市における課題抽出は勿論のこと、皆様から頂いた声を基に仮説を組み立て、専門的知見や他自治体事例の調査を行なながら、流山市に適した費用対効果の高い政策立案を目指しています。



●議会から市に提言

よりよい流山市にしていくために、市が予算案を策定し議会が認めるという関係の中で、市と議会が切磋琢磨しています。特に年4回行われる議会では、議員が自由に政策提言できる機会（一般質問）がありますが、1期目の私はこの機会を十分活用して政策提言を行い、多くの方にご理解いただけるよう努力しています。



●市民相談

ご連絡を頂いたり、駅のコンシェルジュ活動で伺ったりと市民相談の対応もしています。この相談から政策提言につながることもあります。個人の利益誘導は出来ませんが、個別課題を掘り下げることで全体の利益に貢献することも多々あります。皆様の日々の暮らしが改善するよう現場目線を大切にしています。



「ひとりぼっちをつくらない！」大阪府豊中市社会福祉協議会訪問

NHKドラマ「サイレント・プア」のモデルにもなった大阪府豊中市社会福祉協議会の勝部麗子さんにお会いし、コミュニティソーシャルワーカー（CSW）の取組みを勉強してきました！



コミュニティソーシャルワーカーの
勝部麗子氏と一緒に



勝部麗子さんの取組みは書籍化されています

ゴミ屋敷は社会的孤立の象徴（ゴミ屋敷問題は誰にでも起こりえる）

「退職後ゆっくりしていたら体が弱ってしまった」「最愛のパートナーを失い精神的に大きなショックを受けた」等のきっかけでゴミが出せなくなるケースも多いようです。ご近所に助けてもらえばよいのですが、隣に誰が住んでいるか分からぬ関係では、むやみには頼れません。ためらっているうちにゴミがたまり、人を招けなくなつて孤立を深めていく多くの事例を伺いました。

本人の経済的負担が少ない「福祉ごみ処理プロジェクト」

豊中市では行政・関係機関、住民ボランティア、CSWが連携して、本人に経済的負担があまりかからない自前のルールを作り、この10年で400件の支援を実現しています。CSWは「助けて！」と自らSOSを出せない本人にアプローチし、その方の立場でサポートをしながら、住民をつなげて地域の協力体制を構築していきます。

CSWは助けあいを通じて地域の力を強化していく専門家なのです。

勝部さん達の取組みは書籍化されています。安心して住み続けられる地域づくりに向けて勉強し、提言に活かしてまいります。

その他のニュース

流山市路上喫煙の条例が強化されました！



駅を中心とした重点地区で路上喫煙又はたばこの吸い殻のポイ捨てを行った場合、直ちに2,000円の過料を徴収するよう条例が強化されました。注意喚起用のポスターはデザイン性の高いものを要望し実現しました。

おおたかの森小中学校に、エアコン設置が実現！



子ども達から訴えられてきたエアコン設置が遂に実現しました。工事は夏休みの予定だそうです。残暑が厳しい9月には快適に授業が受けられそうです。

ご要望に
応じて開催

ざっくばらんに近藤に 何でも聞いてみたい会

2～3人からの集まりに出張し、近藤が調査したこと、市に提言したことなど、近藤の考え方をお伝えします。また皆様との対話によって市に提言すべきことを考えていきます。議員は市民と行政のパイプ役。ワンストップ窓口係です。お気軽にご連絡ください。

相談＆問い合わせ先： info@mihokondoh.net

商業地域の用途は！？全てマンションなら3000戸！



【おおたかの森駅付近の都市計画図】
スーパーべルク横の空き地の開発の進捗を定期的に確認しています。

つくばエクスプレス沿線整備・新川耕地特別委員会では、近隣商業地域の開発状況を定期的に確認しています。このエリア全てがマンションになれば教室不足に。そうならないよう今後も注視していきます。

政策研究会「まちづくり政策ラボ」開催中！



今後の予定は
HPをご覧
ください。



これまで近藤が調べてきたこと、提言したことなどを報告すると共に、意見交換をさせていただき、政策を深める研究会です。テーマ毎に定期開催しています。ぜひお気軽にご参加ください。



茨城県潮来市生まれ。2008年長女出産と同時に流山市に転入。東京都立大学大学院建築学卒。2児（9歳と7歳）の母。大学時代にコンピューターの面白さに出会い、都内のITエンジニアリングコンサル会社に就職。本格的に働き始めたら地域にお世話になるからと、第二子の育児休業中にボランティアに従事。地域には様々な課題があることを知り本腰をいれて向き合いたいと立候補。H27年5月流山市議会議員初当選。

【近藤みほ略歴】

2017/12
一般質問

新設小学校建設に伴う 学区変更について

住民の声を
届けました

非常に多くのご意見・ご要望を頂いた10月から
2月、全力で市政につなげました！

討議資料

学区方針決定については、10月半ばから2月にかけて多くの問い合わせを頂きました。教育の質は児童が多くなりすぎると低下するため、学区変更にご理解を頂くことを基本としながらも、学区を前提としてご自宅を購入されているなど、ご家庭により様々なご事情もあることから「どこが妥協点なのか」を見出しながら地域要望を行政に届けました。皆様の切実な要望を単なるクレームにしたくありませんでしたし、学校運営は保護者のご理解無くしては不可能だからです。議会でも訴え、最終的には住民要望を基に調整が行われました。学区の大方針はホームページで公開されましたのでご確認下さい。

今後は過密化する既存校の教育の質の低下防止策や、子ども達が通いたくなる新設校のあり方について研究を行い、適切なタイミングで提言してまいります。ご心配な点があればご連絡ください。

2017/12
一般質問

多胎児の親への 子育て支援策の充実を

一步前進

非常に多くのご意見・ご要望を頂いた10月から
2月、全力で市政につなげました！

本提言にあたっては先輩議員の方々にも多大なるご協力を頂きました。この場で御礼申し上げます。



詳細はHPにて
ご確認ください。

QRコード



多くの問い合わせをいただきました。
「ざっくばらんに近藤に何でも聞いてみたい会」

駅前から新設校まで、
ランドセルを背負って歩いてみる会を実施
多くの議員の方々にご協力いただきました

2017/12
一般質問

多胎児の親への 子育て支援策の充実を

双子のお子さんをお持ちのお母様から「ヘトヘトに疲れてしまった・・」という声を頂き調査してきました。転入者が多い流山市では、地縁血縁がうすく頼り先がない方が多い。

多胎育児サポートネットワークは、不妊治療の普及もあり年間に出産する母親のおよそ100人に1人が多胎児の母親と自然状態の2倍に増加している中で、多胎児の育児は身体的・精神的な負担が非常に大きく多胎児が虐待される危険性は単胎児の10倍以上と警鐘を鳴らしています。

事態が重篤になる前に行政による予防的支援策が不可欠であることを訴えた所、就学未満児を3人以上養育するご家庭に対し、ファミリーサポート全利用料の半額助成（月額3万円を上限）が実現しました。

多胎児の虐待リスクは単胎児の10倍以上。
予防的支援策を提言、予算が付きました！

ファミリーサポートは、子どもの預かりについてサポートを受けたい市民とサポートしたい市民とで助け合う仕組みで、通常子ども1人700円／1hの利用料が発生します。

子どもを2人預ければ利用料も2倍と高額になることから、この負担軽減が期待されます。

利用には事前に登録が必要です。

詳細は 流山市役所 こども家庭課

☎ 04-7150-6082 まで

その他、子育てヘルパー派遣事業の導入を要望しましたが、ヘルパーの担い手不足に課題があるため人材育成を含めて検討していくとのこと。引き続き私も研究してまいります。



【今後の課題】近藤は「双子から助成対象に」と主張していたのですが「3人以上」という条件が付いてしまいました。お子さんが2人いて1人が障がい児というご家庭もある中で（公平性の観点から）双子だけを認めるという結論は出せなかったとのこと。しかし本来は両方支援が必要なはずですので、費用面での実績を確認しながら妥当性を検証していきます。少子化の中で子どもは国の宝です。多くの方に支援の手が届くように頑張ります。

2017/12
一般質問

放課後の子どもの 多様な居場所づくり

前進
&
もう一歩

質に直結する支援単位は前進するも、多様な居場所づくりへの理解は得られませんでした。

●更なる質の向上と、多様な居場所づくり実現に向けて提言を続けてまいります！

学童について、市は「小学3年生までの児童と障がい児の待機児童は出さない」と約束しているからか、児童急増局面では質より量と主張していましたが、私はこれを問題として指摘、質の向上を目的としてガイドライン策定を要求し、実現しました。しかし主張が通ったものと通らなかったものがございます。

実現

子どもと指導員の対応関係が保てるよう児童40人以下を1単位とし指導員・補助員を2人以上配置。

実現

研修の充実。特に事業者同志の学び合い、先進事例ケーススタディなどの実践的スキルの習得。

X
叶わぬ

民間学童への助成・学校外への設置

支援の単位が40人以下と規定されたことで学童の質の向上に一步を踏み出すことができました。

学校でしっかり勉強する分、放課後はのびのび過ごすことで、子どもの頭と心がバランスよく育っていきます。市の決断に感謝いたします。

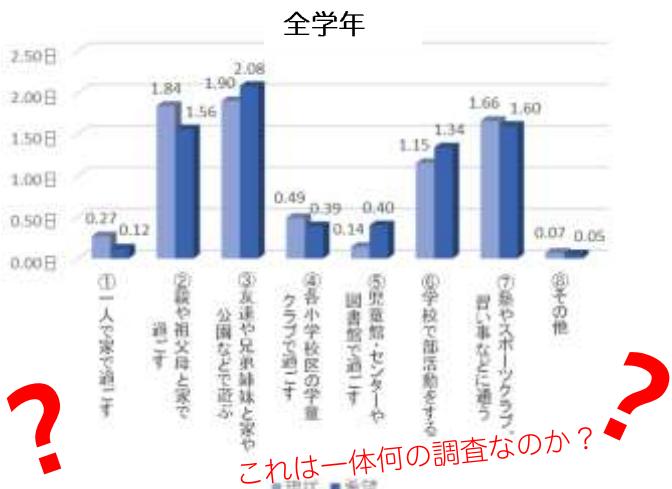
一方で保育園と学童のお迎えのハシゴなど、学童が家から遠い保護者から要望が多かった学校外への設置は安全面から叶いませんでした。民間学童への助成についても時期尚早とのこと。子どもの性格やご家庭の状況により公立学童に足が向かない子ども達が、民間学童を選択したくても高額であり、選択が困難な場合があります。他自治体事例や法令を調査し、子どもにとって最善で多様な選択肢が用意できるよう諦めずに研究と提言を重ねてまいります。

●放課後の過ごし方に関するアンケート調査は論外！

2016年6月の議会で実施すると回答があった、小学生の放課後の生活についての調査について詳細を確認したところ、政策的な課題を抽出できない調査であることが分かりました。

流山市の小学生（全16小学校・全学年）の放課後の過ごし方

平日（月曜日から金曜日の週5日）の放課後の時間について、どのように過ごしているか（現状）、またどのように過ごしてほしいか（希望）の週平均日数（週何日くらい）は、次の通りとなっている



問題点は下記です。

- 学童に通っている／通っていないを分けて分析していない
- 平均のみで、分散などの統計量が公開されていない
- 近藤が要望した学童卒業後の夏休みの過ごし方の調査は項目すら入っていない
- 学校毎の統計の精度に違いがある 等々



政策を考えるためのアンケート調査にも関わらず、全く活かせない結果となっており残念です。政策立案のためのニーズ調査に必要な統計分析のスキルが低いため、この強化を訴えていきます。応援よろしくお願ひいたします。

詳細はHPをご覧ください



その他のニュース

近藤が訴えた提言の妥当性が他自治体で証明？

2017/9議会で提言した、急増する保育需要で膨大な手作業が発生している保育園入園のマッチングの自動化処理の導入については、さいたま市が実施、50時間かかっていた手作業が瞬時に完了、業務改善につながる試算のことです。

3/22 NHK「あさイチ」で取り上げられました。小学生のランドセルが重量化し、中には腰を痛めてしまう子どももいる中「流山市は市議会からの提言で副教材は学校に置いて帰っても良いことになった」と紹介されました。引き続き状況を改善していくよう調査を継続していきます。